

第八回日本私立幼稚園教育研究

全国大会の成果

田 中 次 雄

第一回の教研大会を別府市で開始して以来、回を重ねること八回、本年の大会は神戸市で開催を、昨年、青森大会で決定以来、日私幼本部としては具体的案を研究委員会であり、常任理事会で検討の上着々とすすめ、一方主催案の兵庫県私幼では実際に運営について中央と連絡をとりつつ、本年の大会開催について諸準備を進めてきた。

研究委員会と日私幼常任理事会

一、先ず分科会及びその主題設定

- 第一分科会 幼児教育の特色とは何か
- 第二分科会 教育計画の作り方と生かし方
- 第三分科会 幼稚園幼児指導要録を通じて見た評価の問題点
- 第四分科会 幼児の健康を増進するための生活指導のあり方
- 第五分科会 幼児の社会性をたかめるにはどのようにしたらよいか

第六分科会

自然の指導のあり方をどう考えたらよいか

第七分科会

幼児の言語指導をするためにどのような教育計画をたてたらよいか

第八分科会

音楽リズム指導の再考
発達段階に即応した造形活動

第九分科会

の指導計画はどうあるべきか
の指導計画はどうかあるべきか

第十分科会

いかにあるべきか
幼稚園における視聴覚教育は

第十一分科会

経営管理の評価について
私立幼稚園における施設設備の工夫について

第十二分科会

この十二の分科会の主題は六領域の外六種類、そしてその中には私幼として当然研究されねばならぬ問題を取り上げている。勿論この主題より小項目を更に設定しているが、これらは全国四十五の都道府県研究担当代表者

会を本年一月及び二月に東京及び岡山市で開催し充分に各地方の意見を基にしたことである。

当日私幼としては昨年青森大会の継続をも考え、また本年は特に全国を九地区に分けて全国大会とのかみ合わせによる、地区教員研修会を開催する計画を持った。その地区研修会との関連性を持たせ、それが更に来年度名古屋市で開催の全国大会への移行というふうにも永遠に有機的に組織的に小さな川と本流との関係において流れていくように計画された。

更にそれを各都道府県で報告と地方的に再検討の機会を持つことにしたのである。

二、分科会意見発表者を依頼

各都道府県団体長を通じて各分科会の意見発表者を推せん願ひ、その方々に予め、主題及び小項目に対して意見発表の原稿を依頼し中央においてそれを編集し印刷物を用意した。勿論都道府県全部が一分科会について一人ずつの意見発表者を出せば各分科会は四十五人ずつになるが、施設数に応じて推せんされてきたので、大体各分科会が十人以内におさまった。

三、座長及び助言者を各分科会で四人ずつ依頼

座長二人は主として、私幼自体から全国的に適任者を推せんし、助言者には一人は私幼内部、一人は外部の日私幼講師団から主としてとめた。これらの人選においても最終的には日私幼常任理事会の推せんになったが、研究委員会で充分に検討されたのである。

第一日 分科会

会場 神戸市甲南大学

期日 七月二十六日午前九時より午後五時
参加者 北は北海道南は鹿児島の日私幼教師約三千二百名。一分科会の多い所では五〇〇名に達した。

紙面の都合で第一分科会の概要を拾ってみよう。

第一分科会 私幼の特色とは何か

司会者 内田氏(千葉) 高橋氏(埼玉)

助言者 岡田正章氏(講師団) 多田鉄雄氏(東京)

意見発表者 権沢氏(新潟) 井上氏(埼玉)

尾崎氏(受知) 川並氏(東京)

美和氏(京都) 坂井氏(愛媛)

船波氏(福岡)

- 一、意見発表(一人十分ずつ)。
1. 宗教教育及び特殊教育の可能性があること。

2. 地域社会人と園長教師の長い時代における

人間交流が充分にできている。

3. 園長と教師の人間関係が家庭的で教育の權威が確立していること。

4. 教職員組織が自由で親和的であること。

5. 園長なり設置者の良心的可能な完備せる創造的な施設ができること。

6. 教育理論上も公立に比し幾多の自由性と創造性があること。

なおこの他制度上からの特色、情緒生活面からの特色などそれぞれの方面から開陳されたが要は私幼の現在おかれている位置、私幼関係者の危機感への正しい認識に基づき私幼の特色を正しく把握すると同時に助長すべきものは積極的に助長して私幼振興へ寄与すべきであるとの発言があった。

- 二、日私幼特別委員会より幼児教育(保育)制度の確立についての第二次草案を発表。

第一次草案は昨年青森大会で発表「幼児教育はどうあるべきか」が検討され、その後特別委員会において、各方面の識者からも意見をききここに第二次草案がまとまりこの分科会で発表を見たものである。

1. 義務教育就学前の幼児に対する教育と保育の二元制を再検討すること。日本国憲法、教育基本法、国際連合児童権利宣言、児童憲章、児童福祉法等の精神並びに諸外国の実

情等からみて幾多の矛盾をはらんでいる。

2. 幼児教育は専門の場で行なわれるようにすること。学校教育はそれぞれの学校種別ごとにその教育目的を充分に達成できる専門の場において行なわれなければならない。特に人間形成の基となる幼児教育はその適当な環境においてのみ教育は可能である。しかも発達段階にかんがみてその施設は多数分散設置の必要があり、そこに小規模による設置にも意義がある。

3. 幼児教育の重要性にかんがみ、特にわが国幼稚園教育の過半を担当している私立幼稚園に対する強力なる育成振興が講ぜられべきであること。

- (イ) 国及び公共団体と私学との関係を明確にして私学振興を図ること。

- (ロ) 私学の教師の待遇を国公立と同様に適正を期するようにすること。

- (ハ) 私幼に学ぶ教育費の一部を公費を以て負担すること。私幼の父兄二重負担をなくすよう。

これらに対して助言者からも力強い賛意とそれらに対する国の文教制度の再検討が望ましい事や私学のますますの重要性などが助言された。

第二日 全体会議

期日 七月二十七日午前八時半より正午まで
会場 神戸市国際会館

一、分科会報告書

時間の関係で分科会報告は分科会の速記や司会者助言者らの第一日目の要約原稿により、五十六頁の報告書を夜半に編集、印刷四千部にして第二日目の会場入口で配布しそれをもって報告会の代償とした。

二、全体会議

この全体会議には例年行なっている私幼に二十年以上の勤務教職員を表彰することになっているが本年も六十八名の先生方が表彰を受け、ますます私幼教育に専念する決意を固められた。山下俊郎氏から分科会の助言者としての感想があり、引き続き日私幼が昨年

以来実に一年半をかけて企画した日私幼映画の完成前の試写会をして、批評を仰いだ。

題名「幼稚園教育」：幼児の社会性六巻

製作は岩波映画社に依頼し、本年四月東京の或る幼稚園を選定し、本年の入園児(二年保育年少)と一学期間取り組んで四ヶ月間、やつと撮影が終ったばかりの物である。九月末には完成されて、一般社会にデヴューする予定であるが、この映画の持つ意味はおとに幼児を正しく認識していただくことであるが、幼児が集団に入っていく姿がなまなまと記録されており、保育者としてもいろいろ今更のように考えさせられる内容をいくつか持っているという感想が発表された。

正午全体会議を終了して市内観光にうつつ

今年の国公立幼稚園の 園長会と研究会について

伊 東 金 造

この八月、阿波の鳴門と長崎の島平戸で暑さにもめげず全国国公立幼稚園長会主催の「幼稚園教育研究協議会」と「園長会総会並

に研究大会」が開催された。以下それらの状況と感想一、二を述べてみることにする。

まず幼稚園教育研究協議会鳴門大会につい

た。

結語

以上で成果という題名からは少しそれた感があるが、前にも述べた通りこの一回の大会は今後開かれる地区研修、都道府県研修とつながりがあり、更に来年度というふうに真に空間的には全国的の私幼の研修であり、時間的には果てしなく続くという意味合いでの有意義ばかりでなく、年に一回同じ職にあるものが一堂に会して話しあうという親近感を味うこと、また司会者助言者意見発表者など全国的にその適材を数多く名のりをあげさせるよい機会であり、日私幼外部の講師団の方々にもますます私幼への理解を深めていただくという副次的成果なども考えられ、来年度からは分科会を二日の計画に既に内定している。

ただ本年は第一日の夜「幼児の母親へおくる夕」の特別講演会を宿泊地などの都合で開催出来なかったことを遺憾に思っている。

(日私幼理事長)

* * * * *

てであるが、八月十四、五の両日鳴門市の林崎小学校、精華幼稚園を会場として行なわれた。ちょうど月おくれの盆とぶつかり乗物の